



GOOD NEWS ときのかえ



な感染症に苦しむ貧しい地域の人々に医療の手を差し伸べる働きかけでした。この訪問診療は新しい働きとして医学界でも注目され、松田院長が講師をしていた東京女子医学専門学校（現東京女子医科大学）に学んだ三人の女医もその働きに就きました。医師と看護師は、不衛生な、明かりもないような家々を訪ね、

失明のおそれのあるトラホーム、赤痢、肺炎、結核、腸チフス等、暗がり伏せる患者を見つけては必要な医療につなげていきました。この、最も貧しい人々への医療を自らの使命とした医師や看護師の多くは、イエス・キリストを信じるクリスチャンでした。昨年、女性として日本で初めて医師免許を取得した荻野吟子の生涯を描いた映画『一粒の麦』（現代ぶろだくしん）が、各地の映画館や施設で上映されました。結婚によって性病に罹った吟子は、治療を通して女性の必要性を確信します。離縁後は、様々な妨害にも屈せず、男装して医学校での学びを全うしたのでした。映画では、その吟子を支えたものが、どんな人にも等しい愛を注ぐ神の存在だったことが描かれていました。救世軍病院で松田院長の下にあった三人の女医の一人、岩佐倫医師は、やがて救世軍士官（伝道者）として生涯、救世軍医療の最前線に立ち続けました。後に救世軍の二つの結核療養所の

病への不安の満ちるこの時、病める人々とそのために働く多くの人々を覚えて、祈りを重ねていきたいと願います。そして、新型コロナウイルス感染症の終息が一日も早く訪れますように、と切にお祈りいたします。（救世軍士官（伝道者）

photo : Shutterstock

全世界の医療の現場に、近年見られなかった緊張と混乱がある今、救世軍ではすべての部門で新型コロナウイルス感染症拡大防止策と弱さの中にある人々への支援をおこなっています。そして、その取り組みが医療現場の負担を軽減し、一人でも多くの命が守られる助けとなるよう祈りつつ、この時を過ごしています。日本の救世軍では、長年

六月を医療の働きのために祈る月としています。六月は、日本で救世軍が医療の働きを始めた記念の月です。一九一二（明治四十五年）六月三十日、東京下谷区仲御徒町に救世軍病院が設立されました。遡ること五年前、英国から来日した救世軍の創立者ウィリアム・ブ

帰国後、救世軍病院設立のための資金を送りました。また、来日時のブースに接し、その考えに共鳴した著名人（大隈重信、清浦奎吾、千家尊福、洪沢栄一、尾崎行雄等九名の有志）は、支援金を集めるための観劇会を開き、支援したのでした。救世軍病院初代院長松田三弥は、開院早々午前と夜間の診療の合い間の訪問診療に取り組みました。様々な

初め、医師免許を取得した荻野吟子の生涯を描いた映画『一粒の麦』（現代ぶろだくしん）が、各地の映画館や施設で上映されました。結婚によって性病に罹った吟子は、治療を通して女性の必要性を確信します。離縁後は、様々な妨害にも屈せず、男装して医学校での学びを全うしたのでした。映画では、その吟子を支えたものが、どんな人にも等しい愛を注ぐ神の存在だったことが描かれていました。救世軍病院で松田院長の下にあった三人の女医の一人、岩佐倫医師は、やがて救世軍士官（伝道者）として生涯、救世軍医療の最前線に立ち続けました。後に救世軍の二つの結核療養所の

病は去った」（ルカによる福音書5章12、13節）とあるように、病によって隔離させられていた人の声を聞き、手を差し伸べ、癒されたイエス・キリストの心は、これまで多くの医療従事者を支えてきました。救い主イエスを信じ、その心を自分の心に宿すことによって、

病への不安の満ちるこの時、病める人々とそのために働く多くの人々を覚えて、祈りを重ねていきたいと願います。そして、新型コロナウイルス感染症の終息が一日も早く訪れますように、と切にお祈りいたします。（救世軍士官（伝道者）

War Cry

6月号

福音版
2020
June
No.2802

医療の働きのために祈ります

寺澤 眞由子

所長も務めますが、清貧の生涯を送り、高価な革靴でなく、布製の靴に黒の靴墨を塗ったものを履いていた、という逸話も残っています。聖書に、

「イエスがある町におられたとき、そこに、全身重い皮膚病にかかった人がいた。この人はイエスを見てひれ伏し、『主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります』と願った。イエスが手を差し伸べてその人に触れ、『よろしい。清くなれ』と言われたら、たちまち重い皮膚病は去った」（ルカによる福音書5章12、13節）

二〇二〇年 六月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

http://www.salvationarmy.or.jp

創立者 ウィリアム・ブース

大將 プライアン・ペドル（万国本営 英国ロンドン）

日本司令官 ケネス・メイナード（救世軍本営 東京都千代田区）



世界をみつめて

〈全世界〉新型コロナウイルス感染症に対する取り組み（続報）

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、救世軍の全世界の責任者である、ブライアン・ペドル大將は、4月19日（日）を、新型コロナウイルス感染症に立ち向かう祈りの日として、世界中に祈りを要請しました。サモアで昇り、ハワイに沈む太陽と共に、愛する人を失った人々や弱さの中にある人々のために、感染終息のために、そして、医療従事者や感染拡大防止の第一線にある人々のために祈りました。

●日本では、すべての小隊（教会にあたる）の集会を休止し、感染拡大の防止に努めました。その間の毎週末、本営（本部）から、司令官ケネス・メイナード大佐のショート・メッセージを配信しました。各小隊でも、動画配信や便りによって共に日曜の礼拝や、祈禱会を守る工夫がなされました。

○東京地区では、例年おこなっている街頭生活者への支援（月1回）を、4月以降も支援品及び配布方法を通常とは変更しておこないました。スタッフは、検温、体調確認の上で、手袋、ゴーグル、マスクを着用しました。事前に整理券を配布しながら、一人ひとりに配布方法の変更とお詫びを伝え、配布の際には三密を避ける方法を取って、100人以上の方にお弁当及び缶ジュース類を提供しました。4月は大雨の中でしたが、変更に伴う混乱もなく終えることができました。

○上野小隊では、通年月に一度、山谷地区での給食・伝道活動をおこなっていますが、4月12日がイースターであったことから、お弁当と共に、お祝いのゆで卵も提供し、喜ばれました。「他の支援団体が炊き出しや弁当配布を控えているのでありがたい」と言

ってください方もありました。（配布した卵→）



●ジンバブエでは、救世軍の運営するハワード病院で、病院の外にテントを張って、受診前に感染の疑いのある方の予備診療をおこない、感染拡大防止と医療現場の安全に努めています。（↓ジンバブエでの予備診療の様子）

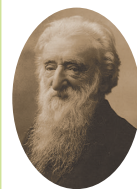


●ガーナでは、各地にある診療所でも対策が始まりました。アフマドナガルにある、救世軍のエバンゼリン・ブース病院は、行政の要請に応え、地域の新型コロナウイルス感染者を受け入れるための30床を準備しました。

●フランスでは、街頭生活者へ食事や衛生用品、避難場所を提供するほか、無料充電支援運動をおこないました。これは、人と接触せずに誰にでもできる支援として、自宅などの窓から「無



救世軍とは？ What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man



救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界131の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブースによって始められ、家のない人々、仕事に就けない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や顧みられない子どもたち、災害に遭った人々などに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは、1895（明治28）年に始まり、伝道の拠点である小隊（教会にあたる）を開設。廃娼運動、失業者対策、病院や結核療養所の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて、様々な働きを興してきました。日本人で最初に救世軍士官（伝道者）となったのは山室軍平です。キリスト教界及び医療・社会福祉分野における先駆者の一人にも数えられています。

（取扱支部）

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではお取り扱いできません。これらの問題ではお問い合わせは、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

発行日 福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

定価 福音版・二部 四〇円

広報版・二部 一〇〇円

クリスマス特集号（十一月一日） 一部 一〇〇円

振替・〇〇・八〇・五四〇〇

発行兼 救世軍

印刷人 代表者ケネス・メイナード

編集人 寺澤 眞由子

〒101-0051 東京都千代田区

電話 〇三・三三七〇・八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 ビーアンドエス

「生きる希望がない」と言われたことが一番ショックで、「心のケア」が私の次の課題になりました。そしてある夜、病棟に薬を補充に行っている時に、天の声で「これはあなたの仕事ではない」という言葉を聞いた気がしたのです。自分で選んだ薬剤師は自分に向いていると思っていました。が、神様が与えてくださった仕事が表示されることを祈る中、聖書学院で学ぶことが許されました。寮に入り、聖書を学ぶ喜びを噛みしめました。迎えた夏休み、薬剤師として宣教の道を探していたところ、淀川キリスト教病院のチャプレン（施設付の宗教援助者）に紹介され、二カ月間、初めてチャプレンの働きを経



験できました。夏休みを終え、寮で一人で祈る中、「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい」（ピリピ人への手紙2章13、14節）という言葉を読み、ああ、チャプレンの道が、神様の示す道だと思いました。

「これはあなたの仕事ではない」という天の声に押し出されて、転職

にいた方に声をかけると、「はようお迎えに来てほしい」と祈っていたと言うのでした。へあー、死にたいんや」と、言葉なく立つ私に、その方は御自分の人生を語り始めました。その人生にあった心の痛みもすべて。それに耳を傾けていた部屋の方々も、次々と御自分のことを語り始めました。

ある青年との出会いが、私のチャプレンとしての働きを支え続けています

進学先を探している時に、淀川キリスト教病院から声をかけていただき、チャプレンとして働く二年目に、私にとって忘れられない青年との出会いがありました。悪性腫瘍で入院していた二十歳の健ちゃんです。横柄な態度でスタッフを傷つけることがあり、もう手術もできないため、チャプレン室にお声がかかりました。会いに行くと、神様の話はするな、という感じだったので、漫画や阪神タイガースの話などをしながら、しばらく訪問を重ねていました。小康状態で安心していただけたことです。母親が、以前に彼が中枢性胃潰瘍で死にかけたことを、つい、ぼろつと彼に言ってしまった。彼は、「僕、死にかけてたん？ じゃあ、今の僕は、生かされているんだね」と母親に言ったそうです。母親が帰った後に私が訪ねると、「僕、死にかけてたの？」と聞くので、そうだったと答えると、彼はゆっくり言いました。「僕は、生かされてるんだよね……生かしてくださっている方を知りたい。」

それからの彼の信仰の吸い込みは本当に早く、私に有名な聖書の箇所を一句ずつ毎日紙に書いて持ってきてほしいと頼みました。彼はその一句を心に蓄えるように暗唱していきました。彼の体調が悪化していくある時、どうして十字架を大事にするの？ と聞かれました。私は、イエス様が、十字架の刑で私たちの罪の身代わりとなり、神様の愛を示すため死んでくださったから、醜い十字架を愛の表れとして大切にしているのよ、と説明しました。その時は何も言いませんでしたが、数日後、洗礼を受けた、と健ちゃんは言いました。彼の希望で、他の患者さんにもいる六人部屋の病床で洗礼を授けていただきました。洗礼後、みるみる体調が悪くなっていく彼でしたが、「胸がビシビシと張り裂けそうなくらい嬉しい」と言いました。その後、彼は私に言ってくれました。周りの人が次々に退院する中、人をうらやみ、妬み、嫉む自分があるのすごく嫌で、どんなに自分で変わりたいと思っても

キトリ
ご住所
ご氏名
□□私の近くの救世軍を紹介してください。
□□キリスト教についてもっと知りたいです。
□『ときのかえ』の購読を申し込みます。

※本文中の聖書は口語訳聖書より引用
手紙2章15節）
です。チャプレンは、人に寄り添うことを通してキリストのかおりを放つ者と思っています。いかにして求めない人にも寄り添うか、を常に大切にしています。今の病院に勤めて、六月でちょうど十年。許される限り、こつこつと働きを進めたいと思っています。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

信仰の体験談 あかし証言のページ



幼稚園の時、近所の友達が、家の前でダンプロトラックにひかれて急死しました。その日は、幼稚園の遠足の前日で、その子は、幼稚園から帰るとしばらく私の家で遊んでました。私は、遠足の買い物に行きたいので、「帰って」と言ってもなかなか帰らない彼に我慢できず、引きずって家から追い出してしまったんです。夕食後、電話でその子が亡くなったと連絡があったのでした。私は死んだと聞いてもその意味がわからず、母の様子や、お通夜の前にお別れを

しに行った時、その子のお母さんが棺にすがりついて取り乱して泣いていた姿に、とんでもないことが起こったことがわかりました。以来、あの時帰らせた自分の姿、帰らせてなかったら死ななかったのでは、などという思いをずっと抱き、「私はいいい子ではない」というイメージが心に刻まれ、自分のエゴを見つめさせられていました。その子のお母さんに会っても、追い返した自分への後悔がいつもあり、周りの人に「大きくなったらわね！」と言われても「自分は大きくなれないんだ」ということを思うようになったっていったのです。そのような思いがあったからか、「存在感のない子」と言われる幼少期でした。その後、中高一貫の学校に進学し、そこで先生や友人に恵まれ、変わりました。

数学が好きだったこともあり、高一の時、医療系で私にもできそうな薬学を目指し始め、希望の大学に進学しました。そして、ふと多様な人生の選択肢がある中、「私が私で良かった」と思える人生の土台が欲しくなり、教会に行くことにしたのです。長年の罪責感もそれを促しました。小学校の時に、近所のお姉さんが毎週日曜日に近所の教会学校に行っているのを知って、私も数年通ったことがありました。けれども、しだいに教会から足が遠のいていました。

は私に、自分の話を伝えてほしいと望んでくれました。彼が天に召された後、彼と同室の人や、彼を支えていたボランティア、看護師も信仰をもったのでした。私は、チャプレンを「天職」だと確信し、彼との出会いが、働きながら神学校に通うきっかけとなりました。後に、心理学の学びの必要を感じて、カウンセラーにもなりました。好きな聖書の言葉は、「わたしたちは、救われる者にとっても滅びる者にとっても、神に対するキリストのかおりである」（コリント人への第二の手紙2章15節）

洗礼を受けられることが決まった頃、ある他の教会の牧師夫人から、洗礼式の前には、今までの罪をすべて告白するように、と言われてました。恥ずかしいと思いますが、洗礼式の前日、牧師に私のすべての罪を告白することができました。牧師は最後に、イエス・キリストの十字架による赦しを宣言してくださいました。「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である」（エペソ人への手紙2章8節※）

人生の土台を求めて教会へ。牧師に食らいついて質問を重ねました

「心のケア」という言葉に、皆さんはどのようなイメージをもちますか？
薬剤師として医療の現場に入った沼野さん。現在は、チャプレン及びカウンセラーとして「心のケア」の大切さを医療・介護の現場で発信しています。その人生を導いた出会いについて語ってくださいました。

友達の急死に罪責感をもっていた子ども時代

洗礼を受けられることが決まった頃、ある他の教会の牧師夫人から、洗礼式の前には、今までの罪をすべて告白するように、と言われてました。恥ずかしいと思いますが、洗礼式の前日、牧師に私のすべての罪を告白することができました。牧師は最後に、イエス・キリストの十字架による赦しを宣言してくださいました。

「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である」（エペソ人への手紙2章8節※）

その教会を再び訪ね、一番後ろの席で賛美歌を歌うことを楽しみにしていたある時、一人の女性が声をかけてくださいました。その方のお誘いで、少し遠い、西宮にある教会に通うようになりまし

た。大学卒業後、就職先の病院に恵まれ、薬剤師も薬の専門家として患者様に接することが奨励されました。二年目のある時、女性六人の病室で服薬の説明をしていると、祭りの声が聞こえてきました。すると、部屋の全員が手を合わせて拜んで見送ったのです。そば